

生徒を認め、伸ばすための 1年生夏休み前の目線合わせと生徒把握

1年生の夏休み前は、学力面でも生活習慣面でも、生徒間の格差が拡大し始める時期である。生徒に諦めさせず、学力や意欲の格差を広げないようにするためには、この時期に改めて教師間の目線合わせを徹底することが必要だろう。その上で、それぞれの生徒の状況を把握し、この時期に合った指導を実践したい。

※このコーナーは、高校の先生方との会議を経て制作しています。掲載しているデータなどは、先生方が実際に活用されているものを基にしています。

教師間の目線合わせ

図1 学年目標にリンクした夏休み前後の目線合わせシート

ダウンロード

今年度の目標：高校生としての生活習慣を付け、学習に向かう姿勢を養う

	6月	7月	8月	9月
月の目標	高校生としての生活習慣の徹底		普段通りの規則正しい生活を維持する	夏休み後の気持ちの切り替えをさせる
教師間で共有すべきこと	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対する意欲にばらつきが出始める 中学校での順位と高校での順位の違いに対するフォローが必要 	<ul style="list-style-type: none"> アルバイトへの興味や髪型、服装などの乱れに注意を払う 定期テスト終了後は開放的な気分になるため、学習意欲を維持させる 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校の級友を介して、生徒の交友関係が広がる 部活動加入者と非加入者で学校とのかかわり方に差が生じやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 生活態度、学習状況の大きな変化に注意 夏休みの疲れを引きずる(部活動加入者) 校内模試の結果を見て諦めさせない
具体的な生徒への声かけ	成績面で落ち込んでいる生徒へ●「高校生活はまだ始まったばかりなので、ばん回は十分可能だよ」「日々の授業が大学入試につながるよ」	夏休みを前に落ち着かない生徒へ●「1学期は毎日遅刻せずに学校に来られたね。夏休みも規則正しく過ごし、勉強すれば、実力が付くよ」	課外欠席者に対して●「正規の授業にはきちんと出席できている。課外は更に実力をつけるチャンスだから、大切に取組もうね」	夏休みの学習がうまくいかなかった生徒へ●「夏休みの遅れを9月中に取り返せるかどうかで、高2、高3の成績は変わってくるよ」

1

教師間の目線合わせを再徹底する

生徒を認めるためのシート

図2 生徒把握のためのセルフチェックシート

ダウンロード

●6、7月

	月	火	水	木	金	○の合計	×の合計
生活	毎日決まった時間に寝て、起きている	○					
学習	毎日決まった時間に、計画通り勉強している	○					
部活など	勉強以外のことにも一生懸命取り組んでいる(例えば、部活動などの課外活動、読書)	×					
	○の合計						
	×の合計						

○の部分を確認するだけでなく、×の部分もなぜ×なのか生徒と話す必要がある。例えば、「部活など」の項目で×を付けてきたときに、その理由を掘り下げて聞き「実はもっと○○をしたい」といった言葉を引き出せば、新たな目標設定につなげることができる。

●8月

	月	火	水	木	金	○の合計	×の合計
生活	毎日決まった時間に寝て、起きている 家族の一員として家事に協力している						
学習	毎日決まった時間に、計画通り勉強している 夏休みだからできる、じっくりと腰を据えた学習に取り組んでいる						
部活など	勉強以外のことにも一生懸命取り組んでいる(例えば、部活動などの課外活動、読書)						
	○の合計						
	×の合計						

○×で記入させることで、生徒の負担が少なく、担任の確認も簡単になる。担任が毎日目を通すことで、生徒に安心感を与える効果もある。なお、項目は「これだけは守りたい」という基本的なもので、かつ「生徒を認めるためのチェック」という視点で生活、学習と偏りなく設定する。

ダウンロード

このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> →HOME>情報誌ライブラリ(高校向け)>生徒指導・進路指導ツール集

プラス α の指導

指導ノウハウを蓄積し 具体化して継承する

生徒と同様、6、7月は教師も、4月には同じ方向を向こうとしていたはずなのに、少しずつばらつきが出始め、指導の足並みをそろえられなくなる時期。1年間の目標と各時期の取り組みを整理することは、学年団の指導方針を再徹底するためにも有効だ。また、新しく赴任してきた教師、指導歴の浅い教師が多い学年団にとっては、学校としての指導力継承の意味でも、時期ごとの指導を見える形で具体化することは重要だろう。

生徒に帰属意識を 持たせる指導を

「生徒把握チェックシート」では「個々の生徒が学校につながっている部分があるか」という視点からもチェックすることができる。学校生活の中で意欲的に、まじめに取り組んでいることが一つもない生徒は、夏休みを機に学校から離れていく危険性がある。学習に限らず、部活動、行事など、学校生活の何かで生徒が夢中になれるよう、教師が工夫し続けていく必要がある。学校から離脱していきそうな生徒には「夏休み中に1回は家に電話するからね」「登校日に宿題の進捗を確認するよ」と一言伝えるだけでも、夏休み中も学校への意識を持ってすごさせることができる。

スモールステップの目標設定が 生徒の意欲を高める

夏休み前の面談では、生徒把握のデータは教師が現在の生徒を認め、次のステップを目指す材料として活用する。面談で「ここが出来ている」と褒めた上で、「更にここが出来ればいいね。キミなら出来るはず」と少し上の目標を設定して、生徒の背中を押す。生徒自身が「少しずつだけど、あるべき高校生像に近づいている」「自分もやれば出来る」という意識を持つようになれば、9月以降も学びへの意欲を高め続けることが出来るはずだ。

活用後のフォロー

◎図1は次年度の1年生にも活用出来るデータである。各学年の特徴は尊重しつつも、学校として継承していく基本的な指導を共有する資料として生かしていきたい。このような資料を蓄積していけば、若手教師が3年間の指導ストーリーを見通していく良い材料になるはずだ。

図2は生徒に記入させて終わりにするのではなく、教師が読み、面談や日々の声かけの材料として活用していることを生徒に感じさせることが重要。それがあってこそ、生徒は機械的に記入するだけでなく、担任を信頼し自分を改善しようとしていく。また1か月単位でデータを集計すれば、生徒に自身の成長を感じさせることができる。

データ活用
のねらい

先を見越して、生徒の「今」を認める

先を見越した指導実現のための目線合わせ ●1年次の6、7月は高校生活へ慣れてきたこともあり、入学当初の「高校生としての約束」を生徒が疎かにし始める時期だ。また、「高校では成績が下位になってしまった」などの中学校と高校の違いに起因する問題も顕著になりやすい。この時期の生徒の状況と、夏休み以降目指すべき生徒像を教師間で共有するデータを作成し、学年の目標実現のために今後生徒へどんな声かけが必要かを改めて確認したい。

「今」を認める言葉が生徒と学校をつなぐ ●生徒の意識のばらつきを前に、「〇〇をしてはいけない」といった否定的な言葉を発しがちだ。しかし、この時期こそ、生徒の「出来ていること」を認めるべきだ。生徒を受けとめる声かけが、夏休み中も学校への帰属意識を失わず、意欲を持って新学期を向かえさせる布石となる。

データ活用
の流れ

夏休み明けを見通す

目標から落とし込んだ夏休み前の指導 ●図1は、4月に設定した今年度の学年目標を踏まえて、時期ごとの目標と「各時期で教師が共有する要素」、「生徒への声かけ」を一覧化したものだ。学年会で作成にあたり、学年主任や年配の教師が中心になってこの時期の生徒の変化を洗い出し、夏休み以降を見越した指導の目線合わせを行う。シートは常に各教員が確認できるようにし、面談や日々のコミュニケーションの中で生徒への声かけに生かしていく。

目の前の生徒を認め、次のステップに引き上げる ●図2では学習・生活の両面で生徒の状況を把握する。まず、各時期の目標を達成するために守りたい項目を学年団で決定し、「出来ている、頑張っている」ことを見つけ、夏休み前の面談などで生徒を認める声かけを行う。担任が自分を見守っているという安心感を与えた上で、次のステップを提示することで、生徒の意識を学校から離さずに、2学期以降軌道に乗せることが出来るはずだ。

生徒を認め、 目標に向けて 次のステップへと 歩ませる

図1で今年度の目標と照らし合わせて教師間で夏休み前後の指導の目線合わせを行う

図1で設定した時期ごとの目標を基に図2のチェックシートの項目を決定

生徒に図2に取り組ませ、夏休み前の状況を、認めるという観点で教師が把握する

図2を基に面談などで指導に当たる。次のステップとして何が必要かも明示したい

図3 夏休み前の勉強方法再徹底シート



●全教科通しての学習の姿勢(しっかり守れていることにチェックを入れよう!)

授業こそ命という意識で臨んでいる

入学当初の目標の実現に向けて努力している

●教科別学習ポイント(しっかり守れていることにチェックを入れよう!)

国語 現代文は必ず予習する。一読して大意をつかむようにし、各段落の中心となる文を見つける。そして、意味のわからない言葉は辞書で引く。

古文漢文は音読を繰り返す。また、本文(漢文は書き下し文)をノートに書き写し、文章のリズムに慣れるようにする。

数学 予習では、定義を理解し、覚える。教科書に分からないところには赤線を引いてから授業に臨むようにする。

復習では、授業中に十分理解できなかった点をもう一度教科書やノートで確認し、問題を解いて完全に理解する。あいまいなまま翌日にもちこさないことが鉄則。

英語 英語では予習が重要。まず全文を2、3回通読し、大意をつかむ。意味が不明な箇所は辞書などで調べる。それでも理解できない箇所には下線を引き、授業に臨むようにする。

図4 生徒のタイプに合った先輩データの活用



1年次の偏差値	部活動	1学期の自分の振り返り	夏休み中に頑張ったこと	夏休みを振り返って(卒業時または3年次のコメント)	進学先(志望先)
72	バスケットボール部	数学の成績が安定していなかった	数学の基礎的な問題集を繰り返して、理解を確実にするように努めた	部活動がほぼ毎日あったので、平日は、部活動の後、学校の図書館で勉強したのが良かった	A大 法学部
57	書道部	英語、数学の基礎が定着していなかった	英語、数学は1学期の教科書の学習範囲と、学校から与えられた復習教材を2回繰り返した	徹底的な復習で、自信がなかった数学の基礎が固まった。達成感をもって2学期に臨めた	B大 経済学部
67	化学部	苦手な英語の対策と、得意な数学の得点力アップが必要だと感じていた	英語と数学の成績に大きな差があったので、先生と相談して、学力に合った教材を選んで取り組んだ	無理せずこなせる計画を立てたのが良かった。古典の学習にも時間を割くべきだった	C大 薬学部
48	吹奏楽部	大学・学部に関する知識がなかったので、目標となる進路を早く見つけたかった	英語、数学は毎日欠かさず勉強するようにした	平日の学習は1日2時間弱で、やはり学習量が足りなかった。その分、長期休暇の学習が重要だと感じた	D大 工学部

自校の先輩データを活用することで、生徒はよりリアルにロールモデルを描くことが出来る。また、卒業生からデータを取るの難しい場合は、在校生から収集することもできる。その場合は、3年次のコメントと志望先を記載する。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。

<http://benesse.jp/berd/> →HOME>情報誌ライブラリ(高校向け)>生徒指導・進路指導ツール集

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも併せてご利用ください! 右のウェブサイトをご覧ください。

●2007年9月号
「1年生夏休み明けの意識付け」
●2009年9月号
「1年生中秋の中たるみ対策と『第歩』としての文理選択」

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータの徹底活用 クリック!

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→
生徒指導・進路指導ツール集でご覧ください

加工可能な資料が
ダウンロードできます!

生徒指導・
進路指導ツール集

ウェブサイトから
ダウンロード!

プラス α の指導

全国レベルの視野と 3年間のスパンでの入試観を養う

文理分けを控えた夏休み前には三者面談を実施する学校が多い。この三者面談の場で、大学入試に強い関心をもっている保護者から、「学年順位が何位だと、どの大学に入れるのか？」と聞かれることがある。現在の成績が進路を考える上で参考となる事実は伝えながらも、現時点での校内の成績にとらわれずに、入試が全国レベルの競争であることを伝える。そして、3年生の冬に最高の状態を迎えるためにも、日々の授業を大切にす気持ちが大切だと説明したい。

HRで先輩データに 更なる工夫

図4の先輩データの特定部分を空欄にしておき、HRの際に「1学期の自分をこのように振り返っていた先輩は、夏休みどんなことを頑張ったでしょう？」などクイズ形式で生徒に考えさせる。自分と似たタイプの先輩のデータから励まされるだけでなく、「自分だったらどうするか」と考える過程をさむことで、より等身大の目標設定につなげることが出来る。

先輩使用のノートを見せ、 よりリアルなモデルを描く

先輩がどんな学習をしていたか、より具体的にイメージさせるために、学習状況に関するデータだけでなく、先輩が使用していたノートを見せると良いだろう。板書の書き取り方、予習復習の進め方など、学校が示した学習方法を正確に実行している先輩が、実際に成績がアップしていることを知ることは、生徒にとって、学校への指導の信頼性を高め、「授業第一主義」を徹底することにもつながるだろう。

活用後のフォロー

◎図4の自校の先輩・卒業生のデータは、1年生に限らず生徒の指導では非常に効果的に活用できる。学校全体で在校生のデータ活用の流れをつくり、蓄積しておく体制をつくることは決して容易ではないが、意義深いことは間違いない。高校生活の導入期の仕上げとも言えるこの時期、学習習慣などについて入念に指導することが、夏休みだけでなく、その後の3年間を通じた指導で生きてくことは明らかであり、その取り組みの内容と成果、反省は学校の財産として引き継ぎたい。次の学年団が組織された際に、学校の文化として生徒の学習へ向かう姿勢を根付かせていきたいものである。

データ活用 のねらい

基本の再徹底を意欲につなげる

導入期指導を再徹底する ●夏休み前には、高校の学習に対して諦め始め、学習への取り組みが疎かになる生徒や、塾の影響などで学校から示した方法とは異なる我流の勉強法に走る生徒が出てくる。学年団として、年度最初に生徒に提示していた学習方法を今一度徹底させるために、生徒に働きかけを行う必要がある。そのためには、教師自身が「この程度なら良いだろう」と生徒との決めごとを曖昧にするのではなく、「どのクラスでも同じ指導が行われている」ことを毅然とした態度で生徒に実感させることが不可欠になる。

生徒を「諦めさせない」データ活用 ●生徒は教師以上に、夏休み前のこの段階で生徒間での差が広がり始めていることを感じ取っている。担任の役割は、それが生徒自身の自己否定につながらないように、「差の存在」を認めた上で、まだ十分にばん回が可能であることを生徒に伝えることが必要だ。生徒に、自分と共通点のある先輩のデータを見せて、「諦める必要はない」と励ますと共に、具体的な学習方法や夏休みの過ごし方を伝えることで、意識付けをしたい。

データ活用 の流れ

ポイントを教科別、タイプ別に示す

学習方法の再徹底 ●図3は、教科別の学習ポイントを確認するシートである。生徒が守れなくなりがちな予習復習のルールに絞って、4月当初に配った資料を授業や学年集会で配布するなど再利用しても良いだろう。チェック項目から出来ていない部分を生徒自身で把握すると共に、提出させ担任・教科担当の生徒把握に生かす。

先輩のデータ活用で具体的な学習イメージを構築 ●図4は先輩（卒業生や在校生）のデータで生徒の意欲喚起を狙うものである。夏休み前の面談で、担任が選んだ先輩データを見せたり、「自分と似たタイプの先輩をお手本にしよう」と呼びかけて、先輩データの一覧を配布したりする。ロールモデルを提示されることで、生徒は夏休みの大切さと具体的な学習方法を理解するだろう。

学習方法の 再徹底と 具体的なモデルを 描かせる

授業や学年集会で図3配布。生徒に導入期に実施した勉強方法の再徹底を行う

出来ていること、出来ていないことを生徒自身に把握させる。担任、教科担当がデータを共有し、今後の指導に生かす

図4を用いて、自分のタイプに近い先輩のデータを見せ、生徒に諦めさせないよう意欲を喚起する

面談などで、生徒が出来ている部分を認め、次のステップに進むには何をすれば良いかを指導する